三鷹市立大沢台小学校　令和8年度 【算数】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**＜学習状況の現状と課題＞** ・１から１０までの概念形成のためにブロックや手遊び歌（「ごまだんご」や「ごまなんじゅう」）を活用した。繰り返し活用することによって数の概念を深めることができた。 ・絵や文章から、加法・減法の場面を判断することが難しい児童がいる。特に助詞の理解が難しいと感じる。それゆえ、計算の仕方や考え方を説明することは難しい。 ・生活場面の中で自主的に学習を生かそうとする意識はまだ低い。	**＜指導方法の課題＞** ・平仮名を覚えたばかりなので、文章問題の問われていることが理解できない児童が複数いる。 ・教科書の内容の学習が中心であり、生活場面で用いられる場面や発展的な学習まで取り組ませることは少ない。 **＜授業改善策＞** ・文章問題では、「あわせて」や「のこりは」など、演算決定をする際のキーワードに線を引くように指導し、正しく演算決定ができるようにする。単位についても丸で囲むように指導し、答えに正しく単位をつけるようにする。また個別に対応した指導を行い、全員に基礎的な内容を十分に理解させる。 ◎ミライシードや東京ベーシック・ドリルを繰り返し活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・習熟の状況により、既習事項を生かして、生活場面で用いることができる算数問題を解く。
第2学年	＜成果＞ ・ミライシードや東京ベーシック・ドリル、宿題プリントを行うことにより、理解の定着につながった。 ・児童の考えを短焦点プロジェクターに映し出すことや、具体物を使うことで、学級全体で共有したり、説明し合ったりすることができた。 〈課題〉 ・学習した直後は覚えているが、時間が経つと忘れてしまう児童がいる。また、繰り上がり・繰り下がりの計算に時間がかかる児童もいる。 ・習熟度別での学習、サポート隊の支援により、個の課題に合った学習に取り組んだが、理解が難しい児童もいた。 ・文章問題の理解が上手くできず、立式を間違えて正しい答えを導き出せない児童が少なくない。	**＜学習状況の現状と課題＞** ・文章問題から正しい理解ができず、立式や答え方を間違える児童がいる。 ・１位数＋１位数の計算でも、手を使って計算している児童がおり、数が大きくなることで、より時間がかかったり、混乱している児童も少なくない。 ・目盛りを正しく読みとれず、長さ、水のかさ、時計など、単位が絡むことで、混乱する児童が多くいる。 ・すすんで学習したり、学習した内容や考え方を次の学習に生かそうとしたりする児童が増えてきた。	**＜指導方法の課題＞** ・数の概念の定着が不十分な場合において、手立ての工夫が十分ではなかった。 ・個に応じた指導の工夫として、具体物を用いたり、既習事項とのつながりや基礎を意識して指導をしてきたが、個人差が大きいクラスもあり、定着が不十分になってしまうこともあった。 ・文章問題の理解は、読解力が大切なので、他教科とのつながりをより意識する必要がある。 **＜授業改善策＞** ◎必要な情報に線を引いたり、場面を図に表したりして具体的なイメージをもって立式できるようにする。 ・具体物を使用したり、学習用タブレット端末等を活用したりして、数量や時計を視覚化したり具体物を操作したりして、数の概念や量感をもたせるようにする。 ・ミライシードや東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・短焦点プロジェクター等で児童の考えを提示することで多様な考え方や表現方法を学べるようにしたり、式の意味を読み取り、考察したりできるようにする。 ・日常生活で活用する場面を紹介したり、体験する場を設けたり、他教科の授業と関連できるように計画していく。
第3学年	＜成果＞ ・30マス計算の取組やノート指導をする中で、九九の計算が定着し、2位数×１位数の計算が身に付いてきた。 ・eライブラリや東京ベーシック・ドリルのソフトを活用することで、理解が進んだ。 ・基礎的な計算力が身に付いてきている。 〈課題〉 ・理解力や計算力に個人差がある。 ・文章題などの発展的な内容の理解に課題がある。 ・学びの交流や、自らの学びへの態度を振り返るまとめの時間を十分に確保できなかった。	**＜学習状況の現状と課題＞** ・かけ算九九は暗記や交換法則によって正しい答えを導き出すことができている。一方、乗法の文章問題になると、立式できない児童がいる。 ・３位数と２～３位数の加法計算は身に付いている。1000から２～３位数をひく減法計算は苦手な児童がいる。 ・課題に対して、既習事項を用いて答えを出すことに意欲的な児童が多い。一方で、複数の考え方を出すことができる児童が少ない。 ・サポート隊の協力により、毎授業、サポートが受けられている。困っている児童に、きめ細やかな指導ができることにつながっている。 ・基礎的な計算の力に個人差がかなりある。	**＜指導方法の課題＞** ・答えに見当を付けたり、検算をしたりする経験が少ない。 ・自分の思考を式や図、表、文章などで表現することの経験が少ない。 ・基礎・基本的な計算の力に課題がある児童が多い **＜授業改善策＞** ・答えに見当を付ける経験を重ねたり、検算の仕方を掲示したりして、習慣化できるようにする。 ◎自分の考えをもてるような手立て「一人で考える、友達と考える、友達の考えから学ぶ等」を取り入れた授業を展開する。 ・東京ベーシック・ドリルやミライシードを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。 ・基礎・基本的な計算力の定着のため、計算びゅんびゅんを活用する。
第4学年	〈成果〉 ・数と計算領域では数の仕組みで、数の大小、合成、構成などを理解していることや九九を使った暗算や検算ができている。図形領域では、三角定規の角度や直角を基にした角度を理解している。データの活用領域では、折れ線グラフを書くことや表を書き読み取ることができる。問題に対して自分の考えをもとうとしている。 〈課題〉 ・数と計算領域では、筆算の過程で計算間違いをすることや単位変換ができない。図形領域では、180度以上の角度を測ること、重ね合わせた三角定規の角度の計算ができない。データの活用領域では、２つの折れ線グラフの関係を読み取ることができない。自分の考えを言葉や文章で説明する力が不足している。	**＜学習状況の現状と課題＞** ・問題によく取り組み、解決しようとしている。 ・説明を伴う問題で、文意を正しく理解して式を立てる力が十分ではない。 ・算数で使われる用語の理解が不十分で、適した言葉で説明する力が十分ではない。 ・作図では、図形を模倣してかくことはできるが、問題文のみの場合、想像を働かせて図形をかくことができない。 ・筆算で数を整然とそろえなかったり、書いた数を見間違えたりするなどで計算を間違える児童が多い。	**＜指導方法の課題＞** ・習熟する時間が十分ではない。 ・考えを交流する時間が十分ではない。 **＜授業改善策＞** ◎考えを深められるようにするために、図や表、式、算数用語を用いて表現させ、互いの考えを取り入れるようにする。 ・既習事項と新たな問題を関連付け、解決のための見通しをもたせたり、必要な知識・技能を確かめたりする。 ・問題場面を全体で確かめ、小グループを構成して、互いの考えを交流して、課題を解決していく。 ・練習問題を通して既習事項の定着を図る。 ・東京ベーシック・ドリルやミライシードを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。
第5学年	〈成果〉 ・数と計算領域では十進数位取り記数法の考えに基づき，小数の仕組みで、数の大小、合成、構成などを理解していることやかけ算やわり算の筆算ができている。図形領域では、合同の意味が分かり作図ができる。変化と関係領域では、比例している表が分かっている。友達との交流でよりよい方法や考えに気付き、生かそうとしている。 〈課題〉 ・数と計算領域では、計算の条件に合わせた筆算や単位変換ができない。図形領域では、問題文に合わせた合同な図形がかけない。変化と関係領域では，記号を使った比例の関係を式で表すことができない。考えを自分の言葉で説明する力が不足している。	**＜学習状況の現状と課題＞** ・図や表，式を用いて、自分の考えを表現しようとしている。 ・実感を伴う活動や場面に興味や関心をもち、意欲的に活動している。 ・小数のかけ算やわり算の筆算が概ねできるが，概数にすることやあまりを求める計算は苦手である。 ・図形を模倣して合同な図形をかけるが，模倣する図形がない場合，説明に合わせた図形をかくことが苦手である。また，３つの合同条件で作図はできるが，言葉で説明するのが苦手である。 ・公式は覚えているが活用できていない児童がいる。	**＜指導方法の課題＞** ・学習を振り返って価値付ける時間が十分ではない。 ・数量関係で、実感を伴う場面が十分ではなかった。 ・文章問題では、実感をつかみにくい。 **＜授業改善策＞** ◎気付きを大切にし、考えを広げたり深めたりできるようにしていく。 ・自分の考えや友達の考えを交流する場面を設ける。 ・友達の考えのよさに気付いたり、自分の考え方を振り返ったりする時間を設ける。 ・既習の求め方を基に、新しい求め方を考えることができるようにする。 ・単元において指導の重点を設け，問題に取り組む時間を増やすようにする。 ・具体物や図、場面設定などを使って実生活とつなげる。 ・東京ベーシック・ドリルやミライシードを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。
第6学年	〈成果〉 ・数と計算領域では分数の計算が概ねできる。乗数と積の大きさの関係が分かっている。図形領域では、線対称な図形、点対称な図形の判別、作図、正多角形の特徴が分かっている。変化と関係領域では、２量の比、等しい比の関係、比の性質が分かっている。既習事項を用いて問題に取り組んでいる。 〈課題〉 ・数と計算領域では、ｘとｙの関係を四則の混じった式に表すことができない。約分ができない。速さを分数で表し求めることができない。問題文の意味を正しく理解し正対することができない。	**＜学習状況の現状と課題＞** ・自分の考えを表現したり、分かりやすく伝えたりするなど、最後まであきらめずに考え抜くことができる。 ・図形についてよく理解している。 ・分数、小数での四則のそれぞれの計算はできるが、混合計算、約分、通分が苦手である。 ・問いに正対する力が弱い。 ・基礎的基本的な学力の定着に個人差がある。 ・問題にすすんで取り組み、学習と生活を結び付けて考えることはできるが、生かそうとするところまではいかない。	**＜指導方法の課題＞** ・自力解決の時間と考えを交流する時間の調整が不十分だった。。 ・問いに対する正対の仕方の指導が十分ではなかった。 **＜授業改善策＞** **◎主体的な学びができるように学習のサイクルを確立していく。** ・見通しをもって問題に取り組めるよう、問いと既習事項と見当を導入時に全体で共有する。 ・自力解決する場面で個人に合わせて問題に取り組めるようにしていく。 ・考えを交流する場面を取り入れ、説明する力が身に付くようにしていく。 ・学習が生活の場面で生かされていることに興味、関心がもてるような工夫をしていく。 ・式、図、表、グラフ等を活用し、筋道を立てて考える経験を重ねる。 ・東京ベーシック・ドリルやミライシードを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。